

芸術植物園がオープンしてもうすぐ一ヶ月。もう皆さん散策していただきましたでしょうか？多肉植物好きの私としましては、8月は我慢の季節。水やりも植え替えも控え、ひたすらしおしおになってゆく多肉たちを眺めやるしかすることがない悲しい季節でした。が、いよいよ9月に入り、朝晩も少し涼しくなってきましたので、多肉たちも俄然元気に。人間も植物も一緒ですね。



さて、私の園芸趣味の話は置いておいて。この展覧会にはたくさんの書籍形式の作品が出品されています。本当は皆さんにお手に取ってみたいのが一番なのですが、いずれも貴重書、なかなかそういうわけにはいきません。しかし、いまはインターネットという便利な道具が！出品作の多くを、ウェブ上で閲覧することができるのです。便利な世の中になったものですねー。というわけで、今回はじっくり手に取って眺めたいあれやこれやの資料のうち、ウェブ上に公開されているものをいくつかご紹介したいと思います。

・ 恩地孝四郎『博物志』玄光社、1942年（出品作は個人蔵の書籍と横浜美術館蔵のプリント）

近代デジタルライブラリー | 博物志（一部欠あり）

当ブログをご覧の皆さんにはきっともうおなじみの恩地孝四郎。そう、先頃開催しました「月映（つくはえ）」展の版画家の一人、あの恩地です。版画家として知られる恩地孝四郎ですが、実は本の装丁や写真などの分野でも才能を発揮したマルチ・プレイヤー。

・金子支江子ほか『家庭造花術全書』大倉書店、1908年（出品作は慶応義塾図書館蔵）

[近代デジタルライブラリー | 家庭造花術全書 上巻](#)

[近代デジタルライブラリー | 家庭造花術全書 下巻](#)

今ではあまり想像できませんが、明治時代の女子教育のなかで、造花は裁縫、編物、刺繍などと並んで教えられていました。近代デジタルライブラリーはモノクロですが、原書は美しい多色刷りなのでぜひ会場でご覧ください！

・橘保国『絵本野山草』1755（宝暦5）年（出品作は雑花園文庫蔵）

[早稲田大学図書館古典籍総合データベース | 画本野山草 | 巻之 1-5](#)

[国立国会図書館デジタルコレクション | 畫本野山草（1800年版）](#)

画家や絵付職人向けの絵手本です。一見園芸書のように見えますが、ところどころに花は胡粉で描いて臙脂で隈取りしなさい、などと書いてあります。マリーゴールドやポピーなど舶来の植物も掲載されているので探してみてください。

・岩崎灌園『本草図譜』1828（文政11）-1844（弘化元）年（出品作は雑花園文庫蔵）

[国立国会図書館デジタルコレクション | 本草図譜 | 巻 5-96](#)

2,000種近い植物の図を描き解説を付した江戸時代の植物図譜の最高峰！

・カール・ペーテル・ツェンベリ『日本植物誌』1784年（出品作は雑花園文庫蔵）

Gallica, la bibliothèque numérique | Caroli Petri Thunberg | Flora Japonica: sistens plantas insularum iaponicarum...

スウェーデンの植物学者リンネの弟子で、オランダ東インド会社の医師として来日、768種の日本の植物を採集して帰国後にまとめたのが『日本植物誌』です。後にシーボルトはこの本を持って来日し、尾張の植物学者・伊藤圭介に贈りました。

・水野忠暁『草木錦葉集』1829（文政12）年（出品作は雑花園文庫蔵）

国立国会図書館デジタルコレクション | 草木錦葉集 | 緒巻、巻1-6

斑入り植物ばかりを集めた超マニアックな植物図譜。風変わりなものを好む人は今も昔もいるものですね。木版一色の制約をうまく生かして白黒で斑を表現するところが素敵です。

・野田青葭『拾品考』1850（嘉永3）年（出品作は雑花園文庫蔵）

研医会図書館 | Picasa Web Albums | 拾品考

著者の野田青葭は、長崎・出島で輸入植物の鑑定をしていたひと。なので舶来の珍しい植物をいち早くみる事ができたんですね。十種類の舶来植物の美しい図譜です。

・前田利保『本草通串証図』1853（嘉永6）年（出品作は雑花園文庫蔵）

富山県立図書館 | 古絵図・貴重書ギャラリー | 本草通串証図

江戸末期にはこの前田利保のように植物マニアな大名が各地におりまして、いろいろな図譜を作らせたそうです。富山藩の絵師たちと摺師たちの技術を結集した贅沢な植物図鑑。

・飯沼慾齋『草木図説』1856（安政3）-1862（文久2）年（出品作は雑花園文庫蔵）

国立国会図書館デジタルコレクション | 草木図説前編 | 20 巻

日本初のリンネ式分類による近代的な植物図鑑。上に挙げた『草木錦葉集』のようなモノクロ表現と、花や蕊の拡大彩色図が同居しているのが面白いですね。あの高名な植物学者・牧野富太郎も明治末にこの本の増訂版を刊行しており、長く実用性を保った名著です。

と、沢山ご紹介してきましたが、最後に私の趣味的に外せないのが、名古屋の写真家・下郷羊雄が編集した多肉植物写真集『メセム属：超現実主義写真集』（出品作は名古屋市美術館蔵）。仲間の写真家たちによる前衛的なメセン写真と、メセン愛好家が自らのコレクションを撮った写真とが入り交じった何とも奇妙な写真集です。残念ながらウェブでみることはできませんが、以下の本に全ページ掲載されていますので、ご興味のあるかたは是非ご覧ください。

・山田諭編『コレクション・日本シュールレアリスム14：瑛九、下郷羊雄・レンズのアヴァンギャルド』

本の友社、2001年

愛知芸術文化センターアートライブラリー | 瑛九、下郷羊雄・レンズのアヴァンギャルド

ほか、愛知県図書館、豊田中央図書館などに入っています。

最近巷には植物の力をライフスタイルにとり入れる“ボタニカル女子”とか“植物男子ベランダー”とかいろんな植物愛好のあり方があるようです。ぜひ皆さんもよき植物ライフを。

(KS)